

かつてぼくは胸をバクハツさせるようにして、
この偉大な探検記を読みふけり、
はっきりとその後の人生に巨大な影響をうけ、
世界中を駆け回るようになった。

椎名 誠 (作家)

コン・ティキ



5000万部以上を売り上げた冒険小説の金字塔。
世界中に夢とロマンを与えたあの大冒険が甦る!



監督:ヨアヒム・ローニング/エスペン・サンドベリ 「ナチスが最も恐れた男」
プロデューサー:ジェレミー・トーマス 「ラストエンペラー」「戦場のメリークリスマス」
キャスト:ポール・スヴェーレ・ヴァルハイム・ハーゲン/アンドレス・バースモ・クリスティアンセン/ヤコブ・オフトプロ
トビアス・サンデルマン/ネッド・マダナス・ウイリアムソン/グスタフ・スカルスガルド/アグネス・キッテルセン
2012年 上映時間:113分/イギリス・ノルウェー・デンマーク・ドイツ合作/原題:Kon-Tiki/翻訳:岡田壮平
配給:プロドメディア・スタジオ 後援:ノルウェー王国大使館 ©2012 NORDISK FILM PRODUKTION AS T&TV

「コン・ティキ」冒険の感動を書籍でも!

「コン・ティキ号探検記」 トール・ハイエルダール 著 水口志針夫 訳 河出文庫 / 5月8日発売
「コンチキ号漂流記」 ハイエルダール 著 神宮輝夫 訳 創成社 / 発売中

今年の夏は映画館と博物館で“人類のルーツ”と“海”を知ろう!



国立科学博物館【特別展】
グレートジャーニー
人類の旅

探検家・関野吉晴の手作り丸木舟
「補文号」特別展示!
国立科学博物館 (東京・上野公園)
2013.3/16(土)~6/9(日)
<http://gj2013.jp/>



特別展
深海

深海は宇宙とともに人類に
のこされた最後のフロンティア
国立科学博物館 (東京・上野公園)
2013.7/6(土)~10/6(日)
<http://deep-sea.jp>

世界初撮影に成功した深海のダイオウイカ



太陽だけを追いかけて、
海の彼方へ
男たちは旅立った!

いかだ“コン・ティキ号”で挑む、
太平洋8,000kmの航海。
歴史的な大冒険を描いた感動の実話
世界初の映画化!



第85回アカデミー賞 外国語映画賞ミネート
第70回ゴールデングローブ賞 外国語映画賞ミネート

RECORDED PICTURE COMPANY LTD. NORDISK FILM PRODUKTION PRODUKTION IN ASSOCIATION WITH AIRCRAFTSHIPPER AND NEW PRODUCTIONS
A FILM BY JOACHIM RÖNNING & ESPEN SANDBERG

コン・ティキ

KON-TIKI

6/29 (土)より
ロードショー!

有楽町イトシア イトシアプラザ4F
ヒューマントラストシネマ有楽町
03 (6259) 8608

伊勢丹本館向かい・明治通り側
角川シネマ新宿
03 (5361) 7878

JR渋谷駅東口 宮益坂下交差点かど
渋谷TOEI
03 (5467) 5773

監督:ヨアヒム・ローニング、エスペン・サンドベリ 製作:ジェレミー・トーマス「ラストエンペラー」



www.kontiki.jp

前人未到の大航海に世界中が驚いた! 感動に満ちた、無謀にして痛快な大冒険が遂に映画化!

1500年前と同じいかで太平洋横断に挑戦したトール・ヘイエルダールと5人の男たち。
自然とつながり、歴史とつながり、仲間とつながる、真実の冒険の軌跡。

風と波を動力に、太陽と星を道しるべに、いざ航海へー。



1947年に歴史的な大冒険としてその名を残し、のちに多くの冒険家や探検家に影響を与えた、いかに「コン・ティキ」号の伝説的な航海。この航海は世界中で5000万部以上の大ベストセラーとなり、20世紀有数の名著として知られるトール・ヘイエルダールの著書『コン・ティキ号探検記』や、1951年にアカデミー賞®の長編ドキュメンタリー部門を受賞した記録映画『Kon-Tiki』を通じて世界中に伝えられている。が、101日におよぶ航海の間に、どれほど過酷で、どれほど感動的なサバイバルが繰り返されていたかは、あまり知られていない。

数々の傑作を世に送り続けてきたジェレミー・トーマス(「ラストエンペラー」「戦場のメリークリスマス」)が製作、約16年の構想と準備を経て映画化を実現。それはヘイエルダールと存命中に交わした男同士の約束の実現でもあった。そして、北欧の映画界を代表するスタッフが揃い、約2年の撮影期間をかけてノルウェー、ポリネシアなどで一大ロケーション撮影を敢行、本国では記録的大ヒットとなり、アカデミー賞®、ゴールデングローブ賞外国語映画賞にノミネートされた。

Story

南太平洋のポリネシア諸島は、大陸から遠く位置するにもかかわらず、古くから住人がいる。彼らの起源について南米のインカ文明とポリネシア文明との相似点が多いことから、ポリネシア人の祖先は、南米から海を渡って渡来した古代南米人なのではないか。

1947年、ノルウェーの若き学者トール・ヘイエルダールは、この仮説を証明するため、ある無謀な挑戦を行う。それは古代でも入手が容易な材料のみでいかだを作り、現代の装備は無線機のみで、ペルーからポリネシアへ向かう航海に挑戦すること。その距離は8000km。同じ志を持つ仲間が集まり、信念を貫く男たちの命がけの冒険が始まる。

圧倒的な迫力の映像によりその真実の物語を再現。絶え間ないサメの襲撃、荒れ狂う嵐、命綱である無線機の故障など、想定を超えるトラブルが連続するなかで生き残りの戦いを強いられた男たちが、いかに人間として成長を遂げていったかをスケール豊かに描き出す。そこには、手に汗握るサスペンスがあり、興奮をかきたてるアクションがあり、雄大で神秘的な大自然の美があり、男同士の稀有な友情の物語がある。さらに、命がけで自説の正しさを証明しようとしたヘイエルダールの夢とロマンにも焦点を当てた本作は、自分を信じて挑戦することの素晴らしさをおおらかに物語り、観る人すべての胸をわくわくした思いで満たしてくれる。



ヘイエルダールが発見したポリネシア文明と南米インカ文明の共通点



ポリネシアには南米に存在する品種と同様の果物が根付いていた!



偉大なポリネシアの酋長神ティキの石像が、インカ文明の石像に酷似!

トール・ヘイエルダールとは **「証明するのは、海は障壁ではなく、道だということ。」**

トール・ヘイエルダール / Thor Heyerdahl (探検家、人類学者、海洋生物学者)

1914年10月6日生まれ。オスロ大学で動物学と地理学を専攻し、卒業後ポリネシアのファツヒバ島で1年近く暮らす。滞在中の研究を元に「ポリネシア人の祖先は南米から来た」という学説を構築し、コン・ティキ号による実証航海に挑戦。1947年に見事成功させ、その名を世界にとどかせた。その後も調査探検を行い続け数多くの著作を発表、世界中の学者、冒険家、探検家の尊敬を集めている。2002年4月18日死去(87歳)。

※当時のクルーたち (左から) クヌート・ハウグランド、ベングト・ダニエルソン、トール・ヘイエルダール、エリック・ヘッセルベルグ、トルステン・ロービー、ヘルマン・フッツィンゲル



コン・ティキ号とは

1500年前のいかだを再現するため、当時入手可能であった材料、同じ手法で建造した大型のいかだ。バルサ材の丸太を、麻のロープで縛って組み立てたシンプルな構造。船名はインカ帝国の太陽神ピラコチャの別名、アブ・コン・ティキ・ウイラ・コチャに由来している。なお、オスロ郊外にあるコン・ティキ号博物館には当時のコン・ティキ号が展示されている。

コン・ティキ号の構造

- 帆柱: マングローブの木 高さ 8.7m
- 帆布: 4.5×5.4m
- 小屋の屋根: パナナの葉
- 壁: 竹細工 2.4×4.2m
- へさき: 松
- 前部甲板: 竹の敷物 3.6×5.4m
- 横の丸太: バルサの木 0.3×5.4m
- 垂下竜骨: 松
- 主な丸太: バルサの木 0.6×13.5m
- 船オール: マングローブの木 長さ5.7m